

今年で50周年を迎えた「東急多摩田園都市」の街づくりのノウハウを結集
新たな田園都市スタイルの住宅地『ジェネヒルあざみ野』誕生
総開発面積112,806㎡、443区画の新しい街が生まれます

東京急行電鉄株式会社

東京急行電鉄（本社：東京都渋谷区、社長：上條清文）では2003年4月から、横浜市青葉区で開発中の街づくりプロジェクト『ジェネヒルあざみ野』の販売を開始します。このプロジェクトは、1953年に着手した、民間の開発事業としてはわが国最大級規模の「東急多摩田園都市」が今年、開発50周年を迎えたのにあわせ実施するものです。

『ジェネヒルあざみ野』は、総開発面積約112,806㎡、予定区画数443区画の「東急多摩田園都市」でも屈指の大型プロジェクトです。人気のあざみ野邸宅街やたまプラーザ邸宅街のほぼ中間、美しい街並みの連なるエリアに位置しており、「あざみ野」・「たまプラーザ」両駅からの豊富なバス便により交通利便性の高い立地となっています。

開発にあたっては、世代を超えたコミュニティが形成される街を育んでいきたいという意図から、「さまざまな住まいへの想いを包み込む美しい街づくり」を基本理念に据え、「東急多摩田園都市」50年の街づくりノウハウを、多様な形で具現化しています。例えば、安全性を第一に考えた歩行者優先の道路計画と美しい景観づくりへの配慮から、随所にお子様も遊べるようなポケットパーク的空間を配した、緑豊かな歩行者専用道路を設けたり、公道上に車の速度を抑えるために植栽フォルト（道路に張り出した植込み）やレンガ舗装のイメージランプ（減速を促す視覚的サイン）等の工夫を施し、散歩してみたくなるような街並みを演出しています。さらにクラスター方式（都市機能を分散させ、それを相互にネットワークさせる開発手法）の採用により、街区内への無用な車の進入を抑制しています。

このほか、このプロジェクトで供給する住宅については、世代や家族ごとに異なる住まいのあり方に柔軟に対応するために、「パーソナル・ワン」という考え方を取り入れ、さまざまな生活シーンや住まいのスタイルをきめ細かく想定し、プランニング（間取り）には徹底的にこだわっています。

「東急多摩田園都市」にお住まいの方々は自分の価値観を大切にし、情報感度が高く、文化的な趣味を楽しむ傾向が強いという調査結果があり、当社では、このような方々が多く住まわれていることこそが、この街の魅力を形成している大きな要因と考えています。「東急多摩田園都市」50周年を飾る大型プロジェクトである『ジェネヒルあざみ野』の販売にあたっては、これまで培ってきた「東急多摩田園都市」のこうした魅力を大切にしながら、この街に住まわれる方々とともに新たな田園都市スタイルを創造し、街の魅力

をさらに高めていきたいと考えています。

『ジェネヒルあざみ野』の販売に先立ち、3月6日から購入を希望されるお客さまの会員組織「クラブジェネヒル」の会員募集を開始します。4月上旬には販売センターをオープンさせるとともに、街開きイベントを実施し、同月下旬にモデルホームを公開、5月下旬に登録受付を予定しています。なお、第一期販売では建売住宅19戸（4LDK16戸、5LDK3戸、土地面積158.03㎡～194.26㎡、建物面積110.24㎡～150.41㎡）を販売する予定です。

『ジェネヒルあざみ野』の概要は次の通りです。

『ジェネヒルあざみ野』の概要

所在地	神奈川県横浜市青葉区荏子田二・三丁目	すすき野三丁目
総開発面積	112,806㎡	
総宅地面積	88,554㎡	
総区画数	443区画(予定)	
交通	東急田園都市線「あざみ野」駅より、東急バス「虹ヶ丘営業所」「美しが丘西」「すすき野団地」行約5分「嶮山スポーツガーデン」バス停下車徒歩3分ほか 東急田園都市線「たまプラーザ」駅より、東急バス「嶮山スポーツガーデン(循環内回り)」行約9分「荏子田三丁目」バス停下車徒歩1分ほか	
法的規制	市街化区域、第一種低層住居専用地域・第二種低層住居専用地域、建ぺい率40%・50%、容積率80%、第一種高度地区、道路側外壁後退1.0m	
一般の方(読者)からの問合せ先	「クラブジェネヒル」プロジェクト準備室 TEL 0120-109-005	

以上